届け 世界の果てまでも

令和４年１２月２日　Ｎｏ．４９　文責　校長　飯久保一男

やさしさについて　②

前号に引き続き「やさしさ」について考えます。今号は５つの視点で考えてみます。

その２【あえて悪役になる】

ある子が昼休みにケンカをして，くやしくて泣き出しました。その子は，昼休みが終わって，掃除の時間になっても泣き止まず，掃除をしていませんでした。その子に「どうしたの？」「大丈夫？」と声をかけることも，やさしさの一つだとは思います。

しかし,「いつまでも泣いてないで, 掃除をしなよ」「それって, 掃除をサボっていることなるじゃん」など, あえてキビシイ言葉を掛けることもやさしさです。むしろ, こちらの方が真のやさしさではないかと考えます。ただ，ある程度の人間関係ができていない場合，キビシイ言葉を掛けると，本心とは違ってとらえられてしまうことがあります。また，そのグループや集団の正義感がズレているときは，ただ単にイヤなヤツと思われるだけの可能性もあります。本当の友だちとは「ダメなことはダメ」と言える関係だと思いますが…。

叱ってばかりいる親は問題ありだと思います。逆に，子どもを叱れない親も問題ありです。

子どもに恨まれるかもしれません。本心は理解されず伝わらないかもしれません。しかし，あえて悪役になって叱ることは，やさしさだと思います。「親の心子知らず」の言葉通り，そのときの親の本心は，その後，なかなか理解されないことも多いものです。その子どもが親になり，自分の子どもをもって初めてわかるということもあると思います。

しかし，あえて悪役になるときというのは，そんなことはどうでもいいのです。自分がどう思われるかということは関係なく，その子に成長してほしいということのみを考えているのです。

これは，やさしさの中でも最上級に近いやさしさかもしれません。前号で書いた「自分は後回し」と同様，またはそれ以上の自己犠牲によるやさしさのように思っています。

私たち教職員が，丸１日，子どもを叱ったり，注意したりすることなく過ごせたら，どんなにステキなことだろうかと思います。いつも笑顔で過ごしたいものです。朝，教室へ向かう担任が「今日は子どもを叱らないでいよう」と思うことはあっても，「今日はどんどん子どもを叱るぞ」と思うことはありません。

しかし「ダメなことはダメ」と言わなければならない場面が多くあることが日常です。そういう場面であるのに「いいよ，いいよ」と流してしてしまうことは，やさしいことではないとご理解いただけると思います。また，ダメと言わなければならない場面であるのにもかかわらず，教職員が何も言わなかったり，または，それに気づかなかったりしたのでは, そのクラスなどの集団のルールや公平性が保てなくなります。いわゆる「崩壊」につながってしまいます。

その３【何も言わずに行動に移す】

周りの人のことを大切に思う人は，周りの人のことを理解しようとします。そして，周りの人のためになることをしようとします。どうすることがやさしいことなのかを自然に考えて，何も言わずに行動に移すことができます。

思いやりにあふれたステキなやさしさだと思います。こういうやさしさを受けた人は，「えっ，そんなことをしてくれていたの」と驚き，感謝の気持ちを持ちます。こうして，やさしさの輪が広がっていきます。

その４【誰に対しても平等】

相手が自分にとって＜利益がある人＞＜利益がない人＞ということで接し方を変えて，自分に利益のある人にだけ親切にすることは，やさしいとはいえません。人からよく思われることとか，見返りを求めることなどを考えないで，どんな人に対しても平等に接することが本当のやさしさです。自分への利益を考えていないからこそ，言動に裏表がなく，誰かが見ている・見ていないといったことなども関係なく，誰にでも平等な態度で接することができるのです。

その５【小さなことにも感謝の気持ちをもつ】

自分に対して誰かが何かをしてくれることを当たり前のことと思っていない人は，誰かが自分のためにしてくれたことを，とてもうれしく感じます。ほんのささいなことであっても，当たり前とは思っていませんので，感謝の気持ちを自然にもつことができます。人に感謝ができる人は，やさしい人です。

その６【そっと見守る】

必要もないのに手助けをするのは，やさしさではなく，ただのお節介です。本当のやさしさとは，必要がなければ，あえて手を出さないで，じっと待ってあげることです。自分が手を出したり，声を掛けたりすると，相手のためにならないと判断したときは，そっと見守ります。その人のことをよく理解していることがやさしさにつながります。

…さらに次号に続きます。

お気に入りのブレスレットを，１歳の妹に引きちぎられた５歳の長女。
怒りもせず，妹の手のひらに残っている小さなビーズと
床に散らばったビーズを全部持ってきた。
「〇〇（妹の名前）ちゃんが飲み込んだら危ないから」
と私に手渡した直後，我慢していたのか号泣。
「大切だったからママ直して」
って。やさしい姉よ，感動した母は今から全力で直します‼